

# 赤十字の歩き方

赤十字とアンリー・デュナンの足跡を訪ねる旅  
ガイドブック

カスティリオーネ / ソルフェリーノ

Castiglione delle Stiviere / Solferino

ジュネーブ

Geneva



---

## 刊行の辞

この冊子は、国際赤十字・赤新月運動の発祥地ともいえる北イタリアのカスティリオーネ、ソルフェリーノとスイスのジュネーブに焦点を当て、これら3つの地域に点在する赤十字ゆかりのスポットを紹介したガイドブックです。

アンリー・デュナンの生家や赤十字の史跡などを一度は訪ねてみたいと思う方々は少なくないと思います。本ガイドブックはそうした方々にできるだけ有益な旅情報をお伝えするために、実際に当センターの研究員が現地を訪れ、調査して編集したものです。

海外の赤十字ゆかりの地を訪問することは、一般のツアーではなかなか容易ではありませんが、一人であるいは友人と少人数でこれらの地を訪ねてみたいという方々のために本書を上梓しました。内容についてはまだまだ改善すべき点がありますが、これらも順次改定してゆく所存です。

このガイドブックを機に赤十字ゆかりの地を訪ねる方々が増え、赤十字への理解が一層深まれば幸いです。

さあ、あなたも、この冊子を片手に自由に気ままな「赤十字の旅」に出かけませんか。

2018年7月  
日本赤十字国際人道研究センター

---

## イタリア・スイスの関連マップ

赤十字ゆかりの地であるスイスのジュネーブおよび北イタリアのカスティリオーネとソルフェリーノは距離がかなり離れています。旅の計画を立てるにあたって、地図で位置関係を確認しましょう。



カスティリオーネとソルフェリーノの拡大図



# カスティリオーネ

Castiglione delle Stiviere

## アクセス

ジュネーブ駅からEURO CITY特急で約5時間10分。乗り換えなしでブレシア駅へ。ブレシア駅からバス(No.2)で約1時間。また、デゼンツァーノ駅からタクシーで約15分。ソルフェリーノからはバス(No.7A)で約10分(ただし、本数が少ないので注意)



イタリア共和国ロンバルディア州マントヴァ県にある町であり、その周辺地域を含む人口は約2万3000人の基礎自治体（コムーネ）。県都マントヴァに次いで県内第2位のコムーネ人口を有する。マントヴァとプレシアとの間、ガルダ湖の南西約10kmに位置する。



1

**国際赤十字博物館**

(Museo Internazionale della Croce Rossa)

**✝** Via Giuseppe Garibaldi 50

キエザ・マジョーレから徒歩約10分

(4月～10月) 9:00～12:00、15:00～18:00

(11月～3月) 9:00～12:00、14:00～17:00

月曜定休日(祝日を除く)

入場料5ユーロ、赤十字関係者は3ユーロ。ソルフェリーノの戦いの時代から現在の赤十字活動まで、幅広いテーマで展示品が並んでいる。建物の見た目より広いので、1時間程度は確保したい。受付前にギフトショップがある。



2

**キエザ・マジョーレ (ドゥオモ)**

(Il Duomo di Castigline delle Stiviere)

**✝** Piazza Duomo 3

午前のみ

アンリー・デュナンが救護活動を行った教会。現在は「ドゥオモ」と呼ばれている。「キエザ・マジョーレ」の名称は「ソルフェリーノの思い出」で紹介されており、イタリア語で「大きな教会」の意味。無料だが献金箱への寄付が望ましい。入ってすぐの壁に記念プレート。「この教会で、アンリー・デュナンが傷ついた人々を差別なく救護し、これが赤十字発想の基となった」旨が記されている。



3

**トゥッティ・フラテッリ記念碑**

(Monumento di "Tutti fratelli")

**✝** Piazza Duomo

キエザ・マジョーレ (ドゥオモ) 前

カスティリオーネの婦人達が「トゥッティ・フラテッリ (みんな兄弟)」と言いながら、敵味方の別なく救護したことを記念する碑。また、教会の駐車場入り口そばには、献身的に救護活動を行ったカスティリオーネの婦人達を称える像も設置されている。



## 4 アンリー・デュナンが宿泊した家 (Fondazione Palazzo Bondoni Pastorio 「Henry Dunant Room」)

✠ Via Guglielmo Marconi 34  
キエザ・マジョーレ教会（ドゥオモ）そば

パストリオ家の邸宅で、アンリー・デュナンがカステリオーネ滞在時に実際に宿泊した家。部屋には、デュナン直筆の手紙等が残されている。外壁に記念プレートがある。

現在は Palazzo Bondoni Pastorio 財団所有

現在は一般公開していない。見学希望の場合は、電子メールをこの家を所有する財団に直接送信のうえ、日程を調整する必要がある。

info@fondazione-bondonipastorio.eu（英語可能）

<http://www.fondazione-bondonipastorio.eu/home.htm>



## 5 戦没者慰霊堂 (Famedio dei caduti)

✠ Via Giuseppe Garibaldi  
国際赤十字博物館そば

古い教会。壁の記念プレートには、カステリオーネの他のすべての教会と同じく、この教会の中でアンリー・デュナンが戦争で傷ついた敵の兵隊を、同じ兄弟愛をもって救護した旨が記されている。



# 📷 カスティリオーネから ソルフェリーノへ

昔の面影が今なお残る歴史ある町

森 正尚

## カスティリオーネへのアクセス

### ミラノからブレシア経由で

カスティリオーネ・デッレ・スティヴィエーレ (Castiglione delle Stiviere) へは、電車とバスでの移動となります。

最寄り駅のデゼンツァーノ・デル・ガルダにはミラノからイタリア国鉄で向かいます。途中のブレシアで下車し、バスで行くこともできます。

ジュネーブのコロナヴァン駅から行く場合は、1日1往復、ベネチア行きの特急電車がおり、ミラノ経由で最寄り駅のブレシア (Brescia) 駅に乗り換えなしでたどり着けます。私の訪問時は、7時39分発のユーロシティ特急で、所要時間は5時間10分。それ以外の時間帯は、ジュネーブからミラノ中央駅に移動し、乗り換えてブレシアに向かいます。ミラノからブレシアまで、特急電車で36分。

ブレシア到着後は、改札を出て右前方の出口すぐにある観光センター (Info Point) でバスの乗り場を聞き、乗車券を購入します (3.2ユーロ)。バス乗り場は、観光センターすぐ右の階段を上った先にあります。バスは青色が特徴の地元 APAM 社の第2系統で、詳細の時刻表が HP ([www.apam.it](http://www.apam.it)) に英語でも掲載されているため、必ず事前に確認しましょう。本数は少なく、学校休校時には運休されるそうなので注意が必要です。

カスティリオーネまでは、所要約1時間。私が利用した便は、学生を中心に満席でした。「カスティリオーネ」名のバス停は5カ所あるため、どこの通りのバス停 (via Gnutti 4/6. bar が、国際赤十字博物館の最寄り) で降車するか、あらかじめ地図で確認しましょう。また、バスの降車ボタンは数が少なく見つけにくいので、これも要確認です。さらに車内放送もないため、今どこを走行中か、事前に HP から印刷したルートマップを見ながらの移動をお勧めします。私の時は満席で近くに降車ボタンがなく、運転手にも前もって声をかけていましたが見事通過されてしまい、ようやく次のバス停で降りしてもらいました…。



## ミラノからデゼンツァーノ・デル・ガルダ経由で

もうひとつのアクセス方法は、ミラノ中央駅からイタリア国鉄でデゼンツァーノ・デル・ガルダ経由で行くルートです。



デゼンツァーノ（Desenzano）駅前にタクシー乗り場があり、カスティリオーネまでは約15分。

ただし、運転手に英語はほとんど通じないので地図を示すか、行き先を紙に書いて伝えましょう。困ったときは駅の観光案内所に行けば英語が通じます。バスを利用する場合は、APAM社の第8系統で移動できますが、本数は限られているため、時刻表を同社HPで確認しましょう。

## ◆ソルフェリーノへのアクセス

ミラノやジュネーブから直接ソルフェリーノに向かう場合、一番早いのはデゼンツァーノ駅からタクシーの利用です（約15分）。バスを利用する場合は、デゼンツァーノ駅からAPAM社の第8系統でカスティリオーネに移動し、乗り換えて同社第7A系統でソルフェリーノに向かいます。またはプレシア駅から、先の第2系統でカスティリオーネに移動し、第7A系統でソルフェリーノに向かいます。いずれの場合も、時刻表や乗換えのタイミングなど、APAM社のHPで確認してから利用しましょう。

## ◆カスティリオーネ ⇄ ソルフェリーノ

カスティリオーネとソルフェリーノは5キロほど、車で約10分の距離にあります。

バスはAPAM社の第7A系統が運行していますが本数が少なく学校休校時は運休になるため、HPで時刻表を確認しましょう。乗車券は町中にあるコンビニのようなタバコ屋さんで事前購入が必要です。（2.1ユーロ）



タクシーはホテルで手配し、時間を決めて指定場所に迎えに来てもらうのがお勧め。値段はホテルから手配時に必ず確認してください。

その他、ちょっとしたハイキング気分です歩くという手も。バスの時間が読めず、タクシーが高額だと感じる場合は選択肢の一つかもしれません。ちなみに、自転車での移動は両方の町にレンタサイクル店が見当たらないうえ、道路では車がかなりのスピードで走行しているため安全に配慮して走行しましょう。ソルフェリーノは緩やかな丘陵地帯にのどかな田園が続くので健脚な方は快適なツーリングが楽しめるかもしれません。

## ◆こんな巡り方も……

デゼンツァーノ・デル・ガルダに宿泊して、タクシーでカスティリオーネ、ソルフェリーノを1日で巡るという方法もあります。

デゼンツァーノ・デル・ガルダは、デゼンツァーノ駅が最寄りの美しいガルダ湖畔の町です。早朝に出発できる場合は、まずカスティリオーネを訪問しましょう。その理由は、デュナンが訪れた教会キエザ・マジョーレ（ドゥオモ）を見学できる時間が、基本的に午前中であるためです。合流時間と場所を確認のうえ、タクシーを一度返して町を散策します。町の規模を考えると、昼食もカスティリオーネで取ることをお勧めします。

そして、ソルフェリーノには14時頃に到着するとよいでしょう。多くのお店や施設が正午過ぎから14時頃までお休みになるので、この時間の過ごし方が鍵となります。夕方、タクシーと再合流し、デゼンツァーノ・デル・ガルダに戻ります。タクシー料金は交渉次第ですが、私の友人が利用したときは、100ユーロほどだったようです。

## カスティリオーネとソルフェリーノ

ソルフェリーノは、「赤十字思想発祥の地」として知られていますが、実際デュナンはこの町を訪問していないことはご存知でしたか？ もちろん、ソルフェリーノは赤十字誕生の契機となった戦いの現場であり、ぜひ訪問したい町です。ホテルがあり宿泊も可能ですが、長くても3～4時間の滞在時間で済みます。

一方、カスティリオーネは、実際にデュナンが訪問しており、各所で彼の足跡をたどることができます。救護活動を行った教会、宿泊した家、ここの赤十字博物館を含め、赤十字誕生に至る活動がイメージできて深く感動します。この町は意外と広く、赤十字博物館の見学時間などを含めてゆっくり見て回れば、1日くらいはかかります。時間に余裕がある場合は、カスティリオーネを起点にソルフェリーノ訪問がおすすめです。

## ◆カスティリオーネのお勧めレストラン

地元の方が口を揃えて教えてくれたのが、トラットリア・パオラ (Trattoria Paola)。町の中心部から少し離れていますが、比較のお手ごろな値段で美味しいイタリアの家庭料理が味わえます。

お店のお勧めは、かぼちゃのトルテッリ (Tortelli Di Zucca)。イタリア・ロンバルディア地方のクリスマス料理で、かぼちゃの甘さが特徴です。

住所：Via Porta Lago, 23, 46043 Castiglione delle Stiviere

HP：http://www.trattoriapaola.it/



### ◆カスティリオーネのJHD デュナン・ホテル

カスティリオーネには「JHD デュナン・ホテル」という新しく綺麗なデザイナーズホテルがあります。名前の由来はもちろんアンリー・デュナンで、入口には赤十字旗が掲げられ、館内は赤十字誕生にまつわる出来事をモチーフにデザインされています。



フロント従業員は英語が上手で対応もフレンドリー。レストランもメニューが豊富で美味しく、価格もさほど高くありません。



唯一の難点は、国際赤十字博物館まで徒歩約40分かかること。レンタサイクルもないため、徒歩以外ではフロント手配のタクシー移動となります(所要約5分)。ホテル前にバス停(Barilla)があり、ブレスア発のバスはここで下車できますが、カスティリオーネ中心部への移動手段としては本数が少ないため不便です。

住所：Via Donatori di Sangue, 46043 Castiglione delle Stiviere

HP：<https://www.dunanthotel.it/en/>

### ◆カスティリオーネのお勧めスイーツ店

サン・ルイギ広場 (Piazza S. Luigi) のパスティツェリア・ゴッピ (Pasticceria Gobbi)。ほかにスイーツ店やカフェはありますが、ここはサン・ルイギ教会の目の前にあり、思わず立ち寄りたくなる雰囲気を持ったお店です。色鮮やかなケーキにクッキー、ドーナッツなど、選ぶのに目移りします！



定休日なし。7時半から19時半まで営業。

住所：Piazza S. Luigi, 16, 46043 Castiglione delle Stiviere

HP：[www.gobbipasticceria.it](http://www.gobbipasticceria.it)



## ソルフェリーノ

Solferino

## アクセス

ミラノ（またはベネチア）から直接ソルフェリーノに向かう場合、一番早いのはデゼンツァーノ駅からタクシーの利用（約15分）。バスの場合はデゼンツァーノ駅から APAM 社の第 8 系統でカステイリオーネに移動し、7A 系統に乗り換えてソルフェリーノに入る。



イタリア共和国ロンバルディア州マントヴァ県にある町であり、人口約 2600 人の基礎自治体。1859 年、この地でソルフェリーノの戦いが行われた。この戦闘は第二次イタリア独立戦争に決着をつけたとともに、赤十字運動発足の契機となったことでも知られる。



1

## 赤十字広場

(Memoriale della Croce Rossa)

ソルフェリーノの塔から徒歩5分ほど

ソルフェリーノの戦いから100年にあたる1959年、国際赤十字・赤新月社連盟が設置した広場。赤十字マークがデザインされたモニュメントのそばには、世界各国の赤十字社・赤新月社の国名が刻まれている。広場に続く糸杉の並木道も印象的。



2

## ソルフェリーノの塔

(Rocca di Solferino)

**✦** Via Vicinale del Castello

城塞広場からすぐ

(3/17-10/15) 9:00-12:30、14:30-19:00 月曜休み

上記以外の時期は要予約

ソルフェリーノの戦いで、オーストリア軍の本部となった塔。内部に展示スペースもあり、塔頂まではスロープで登っていく。塔頂からの景色も素晴らしい。入館料：2.50 ユーロ



3

## ソルフェリーノ歴史博物館

(Il museo storico (Museo di Solferino))

**✦** Piazza Ossario

納骨堂近く

(3/17-10/15) 9:00-12:30、14:30-19:00 月曜休み

上記以外の時期は要予約

ソルフェリーノの戦いで使用された大砲や銃、剣などの武器、軍服や戦いにまつわる絵画などが展示されている博物館。入館料：2.50 ユーロ



4

## アンリー・デュナンの銅像

(Statua di Henry Dunant)

**✦** Piazza Ossario

ソルフェリーノ歴史博物館の向かって右前に  
2014年に設置された新しい銅像。



5

## ソルフェリーノの納骨堂

(Ossario di Solferino)

### ✦ Via Ossario

ソルフェリーノ歴史博物館の右手の糸杉の道を登った所

ソルフェリーノの戦いの後、イタリア、フランス、オーストリアの戦死者の納骨堂になった古くからある教会。1,413 個の頭蓋骨が収められている。無料だが献金箱への寄付が望ましい。壁の記念プレートにはフランス語で、アンリー・デュナンがソルフェリーノの戦いを契機に赤十字の発想を得た旨が記されている。最後には国際赤十字標語にもなった「戦いの中にも慈悲を (Inter Arma Caritas)」の文字も見える。



6

## ソルフェリーノの城塞広場

(Piazza Castello)

### ✦ Piazza Castello

ソルフェリーノの塔近く

高台にあり、ソルフェリーノの戦いの激戦地を見渡すことができる。サンニコラ教会に向かって右側の向かいの建物の壁面には記念プレートがある。ソルフェリーノの戦いが赤十字の創設につながった旨が記されている。



7

## サン・マルティーノの塔

(Complesso Monumentale di San Martino della Battaglia)

### ✦ Via Torre 2, 25015 Desenzano del Garda

ソルフェリーノから車で 15 分

(3/17-10/15) 9:00-12:30、14:30-19:00

日曜日と休日は終日オープン

上記以外の時期：9:00-12:30、14:00-17:30 月曜休み

1893 年にイタリア統一を記念して建てられた塔。エマヌエレ 2 世記念塔ともいう。絵画、展示物など見ごたえがある。塔頂からソルフェリーノの塔を見ることが出来る。裏手には戦争博物館がある。塔と博物館共通入場料：5 ユーロ。



# 📷 ソルフェリーノ紀行

食事も素晴らしい見所満載の町

森正尚

## ソルフェリーノのお勧めレストラン

ソルフェリーノ歴史博物館やアンリー・デュナン像のすぐ近くにあるのがレストランテ・アラ・ヴィットリア・ダ・レナート (Ristorante Alla Vittoria da Renato)。ホテルも併設されていますが10名程度しか宿泊できません。このホテル兼レストランは日赤関係者がしばしば利用しており、店主も日赤関係者を大歓迎してくれます。

お店のお勧めは、カプンセイ (Capunsei) という郷土パスタ料理。パン粉と地元のチーズであるパルミジャーノ・レッジャーノとバターなどで作られ、やわらかい食感が特徴です。ワインも定評があり、また写真のようなラビオリもお勧めです。

住所：Via Ossario, 27, 46040 Solferino

HP: <http://www.darenato.it/en/>



## ソルフェリーノのお勧めスイーツ店

パスティッチェリア・アルコバレーノ (Pasticceria Arcobaleno) がお勧め。トレッリ広場 (Piazza Luigi Torelli) にあるお店。ジェラートが評判ですが、それ以外のスイーツも種類が豊富で選ぶのに迷ってしまうほど。ちなみに、白鳥の形をしたシュークリームと紅茶の組み合わせは最高でした！

月曜日定休日。それ以外の日は、朝から営業。ただし、12時半から15時まではお休み。

住所：Piazza Torelli, 18, 46040 Solferino

HP：なし (Facebook ページあり)





## ジュネーブ

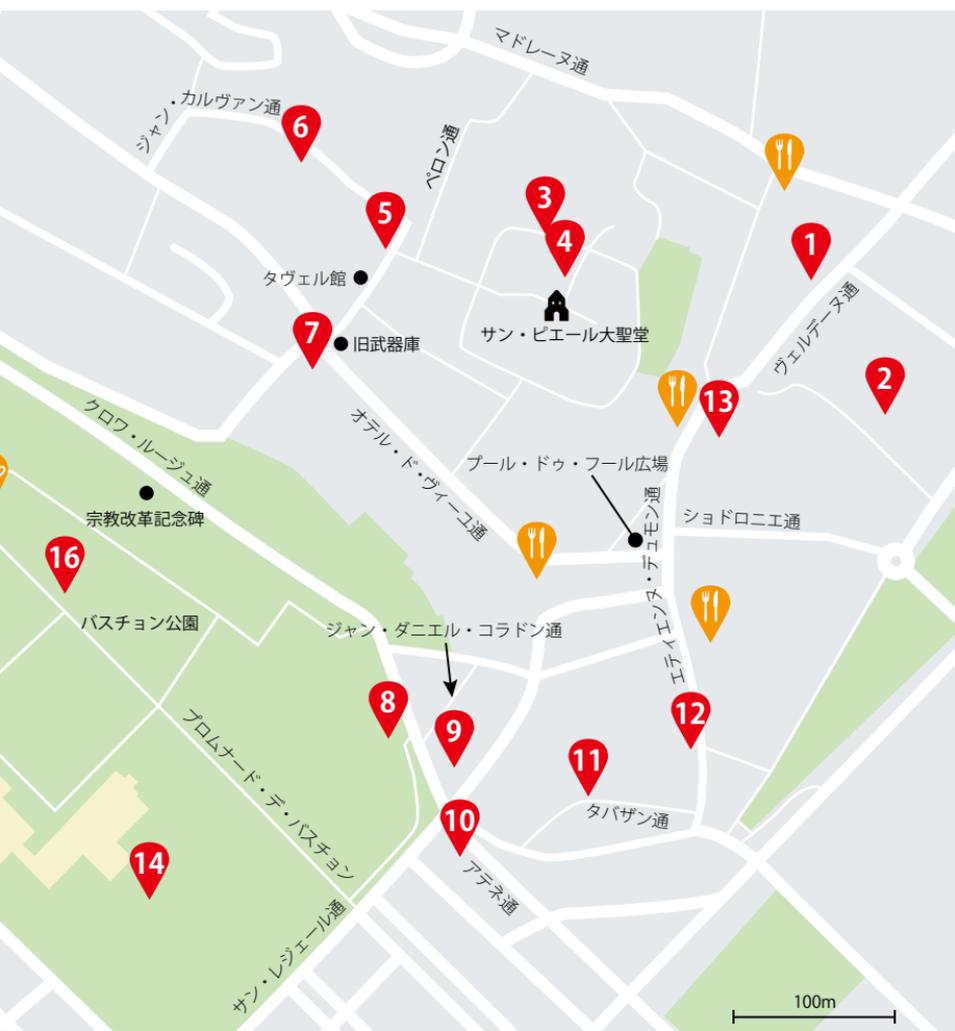
Geneva

アンリー・デュナンが生まれ育ったジュネーブは、レマン湖の南端に位置するスイス第2の都市。国連や赤十字をはじめ、多くの重要な国際機関が置かれており、外交や金融の国際的な拠点となっている。



- 1: アンリー・デュナン誕生の家
- 2: カルヴァン学校
- 3: サン・ピエールの元カジノ館
- 4: 元赤十字社連盟本部・マレ館
- 5: 元デュナンの事務所兼住宅
- 6: ジュネーブ・キリスト教青年会

- 7: ジュネーブ市庁舎内  
アラバマ・ホール
- 8: エナール宮
- 9: モワニエとモノワールの元住居
- 10: アテネ宮
- 11: オラトワール・チャペル
- 12: 元フィック印刷所



- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 13: ジュネーブ裁判所      | 19: ラート美術館（元捕虜情報局）        |
| 14: アンリー・デュナン記念碑  | 20: 赤十字国際委員会本部 (ICRC)     |
| 15: ジュネーブ大学       | 21: 国際赤十字・赤新月博物館          |
| 16: グスターヴ・モワニエの胸像 | 22: マルセル・ジュノー博士記念碑        |
| 17: 馬上のデュフル將軍の銅像  | 23: プティ・サコネ教会             |
| 18: デュナンの胸像       | 24: 国際赤十字・赤新月社連盟本部 (IFRC) |

## 1 アンリー・デュナン誕生の家 (Maison de naissance de Henry Dunant)

✠ 12 Rue Verdaine, Genève /  
ヴェルデーヌ通 12 番地

1828年5月8日、アンリー・デュナンはこの家で生まれた。壁面に、1917年にデュナンの甥モーリスが製作した記念プレートがあり、「当地でジャン・アンリー・デュナン生誕。1828 - 1910。ジュネーブ条約と赤十字の推進者、『ソルフェリーの思い出』の著者、第1回ノーベル平和賞受賞者」と記されている。



## 2 カルヴァン学校 (Collège Calvin)

✠ 2-4 Rue Théodore De-Bèze, Genève /  
テオドール・ドゥ・ベゼ通 2 から 4 番地

1559年にカルヴァンが創設した神学校「ジュネーブ学校」が起源。ルネサンス様式の校舎は創立以来増改築が行われてきたが、現在も往時の面影をとどめている。1838年に10歳で入学したデュナンは、宗教の科目以外は振わず4年後に中退している。



## 3 サン・ピエールの元カジノ館 (L'ancien Casino de Saint-Pierre)

✠ 3 Rue de l'Evêché, Genève / レヴェシエ通 3 番地

ここで最初の赤十字組織「五人委員会」（国際負傷軍人救護常置委員会）が設立された。建物左手壁面に、「この館において1863年2月9日、ジュネーブ公益福祉協会のアッピア、デュフルール将軍、デュナン、モノワール、モワニエらが委員会を創設し、赤十字国際委員会の基となった」と記されている。



## 4 元赤十字社連盟本部・マレ館

(Maison Mallet, Premier siege mondial de la ligue des sociétés de la Croix-Rouge)

✦ 2 Rue du Cloître, Genève /  
クワトル通3番地

1721年に羊毛業で財を成したジデオン・マレが建てたもので、現在は「宗教改革国際博物館」となっている。1919年、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟IFRC）が発足し、1922年まで本部がここに置かれた。連盟本部はその後パリに移転し、1939年には再びジュネーブに戻った。



## 5 元デュナンの事務所兼住宅 (Maison Henry Dunant)

✦ 4 Rue du Puits-Saint-Pierre, Genève /  
ピュイ・サン・ピエール通4番地

元はデュナンの伯母ソフィーが所有していたが、その死後、1856年にその子供たちからデュナンに寄贈された。デュナンは少年時代からなじみのあったこの家を事務所兼自宅として使用し、『ソルフェリーノの思い出』もここで執筆した。出版後、赤十字創設やジュネーブ条約の制定に向けての会合や各方面との交渉作業もここが拠点となった。また、スイス赤十字が創設される2年前の1864年3月17日、ここでデュナンはデュフル將軍やモノワールらとジュネーブ赤十字を創設した。



## 6 ジュネーブ・キリスト教青年会 (Union chrétienne de jeunes gens de Genève)

✦ 14 Rue Jean-Calvin, Genève /  
ジャン・カルヴァン通14番地

1852年、デュナンはこの場所で友人のマックス・ペローと共に「ジュネーブ・キリスト教青年会」を結成した。1855年にはパリでYMCA同盟世界大会が実現するが、各国の組織を束ねる世界同盟の必要性をいち早く訴え、その規約の草案を手がけたのもデュナンであった。現在の建物はYMCAとは無関係。



7

**ジュネーブ市庁舎内アラバマ・ホール**

(Salle Alabama, Hôtel de Ville de Genève)

✦ 2 Rue du l'Hôtel de Ville /

ロテル・ドゥ・ヴィーユ通2番地

1864年8月22日、このホールで開かれたスイス連邦政府の招集による国際会議で最初の「ジュネーブ条約」が締結された。中庭正面の大きな扉の脇にALABAMA（アラバマ）の文字が光る。ホールは現在も会議等で使用され、「エスカラード祭」等の記念日を除いて内部の見学はできない。



8

**エナール宮 (Palais Eynard)**

✦ 4 Rue de la Croix-Rouge, Genève /

クロワ・ルージュ（赤十字）通4番地

ここは19世紀後半に婦人たちが先頭に立ち、ジュネーブ赤十字の活性化をめざす拠点ともなった場所。ジュネーブ大学があるバスチョン公園を見下ろす位置にある。イタリアで財を成した銀行家で外交官でもあったジャン・ガブリエル・エナールが1817年から1821年にかけて自邸として建設した。



9

**モワニエとモノワールの元住居**

(Ancienne résidence de Moynier et Maunoir)

✦ 3 Rue Jean-Daniel-Colladon, Genève /

ジャン・ダニエル・コラドン通3番地

アテネ宮の筋向いに位置するこの建物には、ICRCの前身である「五人委員会」（国際負傷軍人救護常置委員会）の構成メンバーであったテオドール・モノワールとグスタヴ・モワニエのそれぞれの住居があった。モノワールはジュネーブの有名な外科医で、「五人委員会」の発足時は76歳のデュフル将軍（「五人委員会」初代委員長）に次ぐ高齢の57歳であった。一方のモワニエ（「五人委員会」第2代委員長）は法律家で、「五人委員会」発足当時はデュナンより2歳年上の37歳の若さであったが、すでに「ジュネーブ公益福祉協会」の会長を務めていた。



## 10 アテネ宮 (Palais de l'Athénée)

✦ 2 Rue de l'Athénée, Genève /  
ラテニー通 (アテネ通) 2 番地

「五人委員会」は 1863 年 10 月、英仏など 16 カ国から政府代表の出席を得て、その最初の国際会議をこのアテネ宮において開催した。ここで「赤十字規約」が採択され、各国赤十字社の設立と翌年成立する「ジュネーブ条約」の基礎になった。この規約の中には、白地に赤十字のデザインを標章と定めた条項も含まれている。壁面には「芸術協会アテネ宮。1776 年創設。デュナン、デュフル、モワニエ、アツピア、モノワールにより 1863 年創設の赤十字国際委員会発祥の地」と記されている。



## 11 オラトワール・チャペル (Chapelle de l'Oratoire)

✦ 7 Rue Tabazan, Genève /  
タバザン通 7 番地

青年時代のデュナンのキリスト教活動の拠点となった教会。記念プレートには、「オラトワール・チャペル、1859 年 6 月 29 日、ジュネーブ福音教会は、ロンバルディアに戦傷者救済のための国際救援隊の派遣を決定した。赤十字運動のさきがけである」と記されている。



## 12 元フィック印刷所 (Ancienne Imprimerie Jules-Guillaume Fick)

✦ 14 Rue Etienne-Dumont, Genève /  
エティエンヌ・デュモン通 14 番地

今は画廊となっている 1 階に、『ソルフェリーノの思い出』の初版 1,600 部をデュナンが自費出版した印刷所があった。記念プレートには、「ジュール・ジローム・フィック、赤十字の基となった『ソルフェリーノの思い出』を 1862 年、アンリー・デュナンのためにここで出版」とあり、「デュフル将軍が 1826 年から 1845 年までここに居住」とも記されている。



### 13 ジュネーブ裁判所 (Palais de Justice de Genève)

**✦** Place du Bourg-de-Four 1, Genève /  
ブル・ドゥ・フル広場 1 番地

サン・ピエール大聖堂のすぐ近く、ブル・ドゥ・フル広場に面した州警察の隣にあるこの裁判所で、1868年8月、デュナンは詐欺罪により有罪判決を受け、多額の負債を背負い自己破産に追い込まれた。失意のうちにジュネーブを去ったデュナンは、生涯この地に戻ることはなかった。



### 14 アンリー・デュナン記念碑 (Monument à Henri Dunant)

**✦** Parc des Bastion, Genève / バスチオン公園内

バスチオン公園の一角にあるこの銅像は、1963年、赤十字思想100周年とデュナンの生誕125周年の記念碑として制作され、デュナンの誕生日である5月8日に除幕式が行われた。製作者はスイス人彫刻家ジャック・プロブスで、制作資金はスイス国民からの寄付でまかなわれた。

【見学メモ】この記念碑が設置された小広場は、バスチオン公園内の中心を通る遊歩道、プロムナード・デ・バスチオン (Promenade des Bastions) をはさんで、エナール宮や宗教改革記念碑とは反対側の木立を抜けたあたりに位置している。バスチオン公園は18世紀に造成された公園で、ジャン・カルヴァンの生誕400年を記念して1917年に完成した巨大な宗教改革記念碑は必見だ。



### 15 ジュネーブ大学 (Université de Genève)

**✦** Place de l'Université 3, Genève /  
プラ・ドゥ・ルニヴェルシテ 3 番地

1559年にカルヴァンが創設した神学校「ジュネーブ学校」が大学の前身。1906年、「ジュネーブ条約」改正のための赤十字国際会議がこの大学で開かれ、赤十字標章に加えて赤新月標章を使用することなどが認められた。改正の署名調印式は、再び市庁舎のアラバマ・ホールで行われた。



## 16 グスターヴ・モワニエの胸像 (Buste de Gustave Moynier)

✦ Parc des Bastion, Genève / バスチオン公園内

この胸像は、最初の「ジュネーブ条約」から 125 周年を記念して建立された。台座正面に「グスターヴ・モワニエ、1826 - 1910、赤十字国際委員会の創設メンバー、1864 - 1910 同委員長」、裏面には「記念碑建立 1989 年 8 月 21 日、赤十字国際委員会の創設とジュネーブ条約発展における卓越した役割を偲んで」と記されている。スイス人彫刻家オットー・ピンシェドラー作。『ソルフェリーノの思い出』に感銘を受けたモワニエは、即座にデュナンに協力を申し入れ「五人委員会」(後の ICRC) を立ち上げ、第 2 代委員長に就任して 47 年間つとめた。



## 17 馬上のデュフル将軍の銅像

(Statue équestre du General Guillaume-Henri Dufour)

✦ Place de Neuve, Genève / ヌーヴ広場内

「五人委員会」の初代委員長をつとめたギョーム・アンリー・デュフル将軍の銅像。バスチオン公園正門のヌーヴ広場の中心に立つ。台座には、「G. H. デュフル、ヘルヴェティア公、1787 - 1875」、裏面には「1884 年、国民の寄付により建立」と記されている。スイス人彫刻家カール・アルフレッド・ランツ作。



## 18 デュナンの胸像 (Buste de Henry Dunant)

✦ À l'angle de la rue la Tertasse et de la Rampe de la Treille, Genève / テルタス通とランプ・ド・ラ・トレイユの交わる角地

ヌーヴ広場にあるデュフル将軍像を望む一角に 1980 年に設置された。胸像の台座には、「アンリー・デュナン、1826 - 1910、赤十字の創始者」と刻まれている。デュナンに対して「赤十字の創始者」という言葉が用いられたのは、ジュネーブではここが最初とされる。スイス人彫刻家ルシアン・ジャギ作。



## 19 ラート美術館（元捕虜情報局）（Musée Rath）

✦ Place de Neuve 1, Genève / ヌーヴ広場 1 番地

1826年に開館したスイス初の美術館であるが、第一次世界大戦の1914年から1918年までの間はICRCが「戦争捕虜情報局」として使用した。現在はジュネーブ美術・歴史博物館の一部として、特別企画展の開催等に使用されている。



## さらに足をのぼして……

## 20 赤十字国際委員会本部（International Committee of the Red Cross: ICRC）

✦ Avenue de la paix 19, Genève / へ通 19 番地

中央の屋上にICRCの大きな旗がはためくこの建物は旧館で、元カールトン・ホテルであった建物を1946年に買収して移転した。円筒形で近代的なデザインの受付棟の背後に本館がある。また、敷地内には国際赤十字・赤新月博物館が併設され、一般に公開されている。ICRCは1863年の創設以来、国際人道法の尊守を唱え、戦争、内戦または国内騒乱の犠牲者に対し人道的支援を行っていることはいうまでもない。



【見学メモ】ICRCの敷地内には、広島原爆を生き延びた被爆イチョウから株分けされた若木がある。これは2013年8月6日に、ICRCとグリーン・レガシー・ヒロシマ、国連訓練調査研究所(UNITR)が協力して植樹祭を開催し、広島から運んだ苗木を植えたものだ。核兵器の全面使用禁止と廃絶への決意を込めたアピールである。プレートにはフランス語と英語で、「このギンコウ・パイロウバ（銀杏）は、1945年8月6日の広島原爆を生き延びた樹齢200年の銀杏の子孫である。2013年8月6日、植樹」と記されている。



## 21 国際赤十字・赤新月博物館

(Musée international de la Croix-Rouge et du Croissant-Rouge)

✦ Avenue de la paix 17, Genève / ペ通 17 番地

1988年10月29日に開館したこの博物館は、全面改装されて2013年5月に再開館した。常設展示は、第1部「人類の尊厳の擁護」、第2部「家族の絆の回復」、第3部「自然災害のリスク軽減」の3部構成で赤十字の歴史と活動を紹介している。

【見学メモ】音声ガイドを借りて常設展をじっくり見学するには、最低でも2時間程度はみておきたい。ミュージアム・ショップでは、さまざまな赤十字グッズや書籍を入手できる。



## 22 マルセル・ジュノー博士記念碑 (Monument de Dr. Marcel Junod)

✦ Parc de l'Ariana / アリアナ公園内

国連欧州本部に隣接するアリアナ公園内のアリアナ美術館近くに、自らを「第3の兵士」と呼んだマルセル・ジュノー（1904 - 1961）の記念碑がある。ジュノーは、終戦直前の1945年8月9日にICRC駐日代表として東京に着任した。そこで、原爆投下による広島惨状を知ったジュノーは、連合国軍最高司令部にかけあって15トンにおよぶ医療物資の供出を認めさせ、それを持って9月8日に広島に入り自ら救護活動に尽力した。



【見学メモ】彫刻家の芥川永（Hisashi Akutagawa）作で、2005年に設置。肖像レリーフは、広島平和記念公園内にあるジュノー博士記念碑（1979年建立）のレリーフと同一である。記念プレートには、「広島と長崎に投下された原子爆弾の犠牲者を追悼して、赤十字国際委員会代表で広島の生存者を救った最初の外国人医師マルセル・ジュノーへ、ジュネーブからの感謝を込めて」と刻まれている。

## 23 プティ・サコネ教会 (Temple du Petit-Saconnex)

✠ Place du Petit-Saconnex 1, Petit-Saconnex, Genève /  
プティ・サコネ広場 1 番地、プティ・サコネ区

IFRC 本部そばのプティ・サコネ広場にあるスイス・プロテスタントの教会。1828 年 7 月 8 日、生後 2 ヶ月のデュナンはここで洗礼を受けた。そしてこの教会は、デュナンの両親が結婚式を挙げた場所でもあった。現在の建物は 1730 年に再建されたもの。



## 24 国際赤十字・赤新月社連盟本部

(International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies: IFRC)

✠ Chemin des Crêts 17, Petit-Saconnex, Genève / クレ通 17 番地、  
プティ・サコネ区 (現在建て替え中)

【仮所在地】

Route de Pré-Bois, 1 (IKEA building, 2nd floor) Vernier /  
プレ・ボワ通 1 番地 (イケアビル 2 階)、ヴェルニエ区

国際赤十字・赤新月社連盟は 191 年にのぼる各国赤十字・赤新月社が加盟する国際的連合体である。第一次世界大戦後の 1919 年、パリに設立された赤十字連盟 (League of Red Cross Societies) が母体で、1991 年に現在の名称に変更された。おもに平時における活動に主眼をおき、災害発生時の被災者や国内避難民への救護活動、防災・減災活動、保健衛生などの分野で総合調整を行う。近衛忠輝日本赤十字社社長は、アジア人として初めて、2009 年から 2017 年まで 2 期にわたり IFRC 会長を務めた。



【見学メモ】本部建て替えに伴い、その竣工予定である 2019 年夏まで、ジュネーブ郊外にある家具ストアの IKEA 店舗内に本部機能が置かれている。しかし、一般の見学は受け付けていない。

# 📷 ジュネーブ紀行

赤十字人のためのジュネーブの歩き方

廣渡 太郎

## ジュネーブ旧市街界隈



赤十字ゆかりの地を巡るジュネーブ散策は、旧市街の中心にそびえるサン・ピエール大聖堂（Cathédrale Saint-Pierre Genève）を起点に始めよう。まずはコルナヴァン駅（Gare Cornavin）から旧市街をめざす。トラムやバスを利用する方法もあるが、歩いてみると位置関係を把握しやすい。

駅正面のコルナヴァン広場（Place de Cornavin）からレマン湖へ、モン・ブラン通を直進する。レマン湖に架かる大きな橋がモン・ブラン橋（Pont du Mont Blanc）で、140メートルもの高さになる噴水、ジェドー（Jet d'Eau）の眺めが楽しめる。天気が良ければ、頂に雪をたたえたモン・ブランも望める。橋を渡ったらモラー広場（Place du Molard）に向かう。カフェやショップが軒を並べる石畳が美しい広場だ。

この広場を進み、トラムの通るマルシェ通（Rue de Marché）を越えてペロン通の階段を上れば、もう旧市街だ。街路に設置された案内板に従って歩けば、ほどなくサン・ピエール大聖堂前の広場にたどりつく。大聖堂の見学を済ませたら、あとは地図を頼りに旧市街でデュナンと赤十字の歴史をひもとく散策を始めよう。



まずはデュナンの生家からスタート。デュナン家はジュネーブの由緒ある名家であり、父ジャン・ジャックは実業家で後に議員や判事も務めた。母アンヌ・アントワネットは敬虔なキリスト教徒であり、その兄ジャン・ダニエル・コラドンは高名な物理学者だった。建物は、デュナン家の時代は3階建てで、現在の4階部分は後に増築された。

デュナンの生家のすぐ近く、ジュネーブ裁判所の裏手には、デュナンが通ったカルヴァン学校がある。この学校は、ジュネーブ大学と同様に宗教改革の思想家ジャン・カルヴァンが創設したジュネーブ最古の歴史を誇る学校である。現在は名門の高等学校であり、ルネサンス様式の荘厳な外観は一見の価値がある。

次はデュナンの事務所兼住宅だ。この建物の壁面には「この館は赤十字誕生の目撃者である。アンリー・デュナンによる『ソルフェリーの思い出』の執筆（1862年）、赤十字国際委員会の初会合、1864年3月17日にジュネーブ赤十字創設」と刻まれたプレートがある。その隣の「タヴェル館」は、現存するジュネーブ最古の個人邸宅で民俗博物館として公開されている。

続いてキリスト教青年会の建物。この壁面の記念プレートには「ジュネーブ・キリスト教青年会（YMCA）、1852年、アンリー・デュナンとマックス・ペローが主導し、最初の地元組織を創設。神と隣人、そして、万人への奉仕において肉体と精神を高めるために」と刻まれている。



しばらく歩くとジュネーブ市庁舎に着く。市庁舎の門をくくり中に入ると中庭がある。街路から3階まで馬にまたがったまま入るように設計された螺旋のスロープ式通路が目玉。ホール扉横の記念プレートには、「このホールで、1864年8月22日、最初のジュネーブ条約が締結された。国際赤十字運動の最初の活動」とある。後半には、ここで1872年9月14日に「アラバマ号」をめぐるアメリカとイギリスの調停裁判の判決が下されたことが記されている。ホールの名称もこれに由来する。市庁舎向かい側の建物は旧武器庫で、現在は市の古文書館となっている。アーケード内の大砲3門と壁画も往時の雰囲気や歴史を伝えてくれる。

ジュネーブ赤十字ともゆかりの深いエナール宮は、ジュネーブで最初にパレ（palais「宮殿」）の名を冠した建物だ。現在は市の行政機関が入っており、1階のラウンジは結婚式場としても利用されている。エナール夫妻は、赤十字以外にも多くの慈善事業に積極的に取り組んだことで知られる。

エナール宮のすぐ近く、ジャン・ダニエル・コラドン通には、「五人委員会」のメンバーだったモノワールとモワニエの住宅だった建物がある。しかし現在は、当時のことを伝えるプレートなどは無い。外科医だったモノワールは「五人委員会」発足時57歳で、委員会の名助言者といわれた。モワニエは「五人委員会」発足時37歳、「ジュネーブ公益福祉協会」の会長に選ばれたときは31歳の若さであった。ちなみに、この建物がある街路名「ジャン・ダニエル・コラドン」とは、デュナンの叔父で、1827年にレマン湖で音速の実測実験を行い、ソナーの理論化への道を拓いた物理学者として知られる。

アテネ宮は、エナール宮を建てたジャン・ガブリエル・エナールとその妻アナ・エナール・リュランが建設し、ジュネーブ芸術協会（創設1776年）に提供したもので、1863年以降現在も同協会の本部として使用されている。1863年に「五人委員会」の国際会議が開かれたのは、アテネ通に面した会議室（Le Grand Salons）だった。

デュナンが『ソルフェリーの思い出』の出版を依頼したフィック印刷所は、間口わずか数メートルの5階建ての小さな建物の1階であった。デュナンは自分の思い描く理想を世に訴えるには、上質な書籍が必要であると考え、評判の高かったこの印刷所に製作を依頼したという。

赤十字設立の活動に奔走している間に、デュナンがアルジェリアで手掛けていた製粉会社の経営は危機的状況に



陥っていた。1867年、デュナンが理事会メンバーだったジュネーブ信託銀行が破綻。その余波で製粉会社も倒産し、デュナンは債権者から詐欺罪で訴えられ、翌年有罪となった。その裁判所がジュネーブ裁判所である。

バスチヨン公園の一角にはアンリー・デュナン記念碑がある。これは、右手を高々とあげた守護天使（癒しの象徴で、神の意思を伝える大天使ガブリエル）像、難民の母子像、死にゆく兵士の像で構成される。台座には「アンリー・デュナンに捧ぐ、1828-1910」、「国際赤十字運動の創始者」、「ジュネーブ条約の推進者」、「1963年5月8日、国民の寄付で制作」と刻まれている。

バスチヨン公園正面のヌーヴ広場前には、ラート美術館がある。ICRCは第一次世界大戦で閉鎖されたこの美術館を「戦争捕虜情報局」として使用した。ボランティア約1,200人の手で捕虜の情報がリスト化され、家族への連絡と手紙や救援物資の送付が行われた。作成された700万枚におよぶ情報カードは、現在、「国際赤十字・赤新月博物館」に保存・展示されている。なお、1929年、戦争捕虜の取り扱いに関する条項がジュネーブ条約に規定され、戦争捕虜の待遇を改善し、安否確認とその家族に赤十字通信を届けるという任務は、ICRCの重要な仕事のひとつとなっている。

ラート美術館正面の左壁面に、戦時の奉仕活動に対してフランスとベルギーが贈った記念額がある。上部のフランスの記念額には「1914 - 1918、抑留フランス人の感謝をジュネーブに、1921年12月3日」、下部のベルギーの記念額には「ジュネーブ市のホスピタリティに対し、強制収容のベルギー人とベルギー難民より感謝を込めて、1914 - 1918」と記されている。

右壁面の記念額は、第一次世界大戦終結50周年に元戦争捕虜国際連盟から贈られたもので、「1918 - 1968、第一次世界大戦の強制収容者への奉仕活動と寛大なスイス国民に。ドイツ、オーストリア、ベルギー、フランスとイタリアの元戦争捕虜への連帯と支援のために世界中で発揮された人道の力に対する感謝の証として。元戦争捕虜国際連盟」と記されている。

ヌーヴ広場から通りを挟んだ一角にはデュナンの胸像がある。これは元オラトワール・チャペルの牧師で、歴史家としても知られるアンリー・パベルが呼びかけて寄付が集められ、1980年に設置された。この一角は1868年まで罪人の処刑場で、当時はギロチンが設置されていた。1862年、処刑執行の様子に接したデュナンは死刑制度に断固反対を唱え、ジュネーブでは1871年に死刑が廃止された。

旧市街に点在するデュナンゆかりの地は、2〜3時間あれば十分にまわれるので、ぜひ歴史を感じながらの散策を楽しんでいただきたい。



廣渡 太郎（ひろわたり たらう）

日本赤十字秋田看護大学教授

日本赤十字国際人道研究センター研究員

# 📷 ジュネーブのお勧めカフェ

森正尚

## ジュネーブのお勧めカフェ①

国際赤十字・赤新月社連盟やブティ・サコネ教会に程近いカフェ・ドゥ・ソレイユ (Café du Soleil) のチーズフォンデュをぜひ一度ご賞味ください！

地元の人が「ナンバーワン」と絶賛するフォンデュを求めて、毎日お店はにぎわっています。午後7時を過ぎるとすぐ満席になるため、予約するか早めに訪れるのがお勧め。

定休日なし。午前11時30分開店。夜は午後11時30分まで（日曜日は午後10時15分まで）。

住所：6 Place du Petit-Saconnex

HP：https://www.cafedusoleil.ch/site/en/



## ジュネーブのお勧めカフェ②

地元在住の友人が紹介してくれたのが、プランパレ (Plainpalais) のフリーマーケット近くにあるミュラーズ・ファクトリー (Muller's Factory)。

クレープが人気のカフェですが、甘いものはもちろん、ベーコンとチーズ入りのクレープもお勧め。市内に支店もあり、ちょっと小腹がすいたとき、ぜひ立ち寄りたいたいカフェです。

定休日なし。平日は午前8時半から午後9時ごろまで。日曜日は午前10時15分から午後8時まで。

住所：Place du Cirque 4

HP：https://www.mullersfactory.ch/



## 赤十字のお宝が見つかるかも？ ジュネーブのフリーマーケット

ジュネーブ訪問の際は、フリーマーケットに立ち寄ってみませんか？

毎週水曜日と土曜日、プランパレ (Plainpalais) のマーケットは、骨董品が数多く販売されます。さすが赤十字ゆかりの地、赤十字マーク入りの切手やはがき、バッジなどが結構見つかります！夢中になって探していたら、知らぬ間に1時間が経過しているかも…。



### 森 正尚 (もりまさなお)

日本赤十字社大阪府支部 青少年・ボランティア課長  
日本赤十字国際人道研究センター研究員

## レマン湖 vs. ジュネーブ湖!?

日本では「レマン湖」(Lac Léman) として知られるが、ジュネーブでは「ジュネーブ湖」(Lac de Genève) と呼ぶ。なぜそのような違いが生まれたのか。実は、地元ジュネーブ人でフランス語を話す人たちが「ジュネーブ湖」と呼ぶのに対し、ジュネーブ以外のレマン湖沿岸に住むフランス語圏の人たちは「レマン湖」と呼ぶのだ。

## まずは無料の交通パスをゲット！

ジュネーブに到着したら、宿泊ホテルで Geneva Transport Card を手に入れよう。市内のホテルは、滞在期間中(最大2週間)有効なジュネーブ公共交通機関(TPG: Transports Publics Genevois) のパスを無料で提供している。これでジュネーブ市内(ZONE 10)のトラム、バス、フェリー、列車(2等車)に乗り放題だ。ちなみに、乗降時の検札はないが、抜き打ち検査で無賃乗車が見つかったと高額な罰金が科せられるのでパスは必ず携行すること。



(廣渡太郎 記)

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

赤十字の歩き方

赤十字とアンリー・デュナンの足跡を訪ねる旅  
ガイドブック

2018年7月1日発行

発行・監修：日本赤十字国際人道研究センター

デザイン・印刷：株式会社PS

# A Visitors Guide to Castiglione delle Stiviere, Solferino and Geneva



---

日本赤十字国際人道研究センター

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3

日本赤十字看護大学内

TEL: 03-3409-0882

FAX: 03-3409-0883

H300701/2000